

園評価の結果について

学校法人 北邦学園
菊水いちい認定こども園

令和5年度に実施した菊水いちい認定こども園の自己評価の結果の概要は、次の通りです。

建学の精神 『自然から学ぶ』

1 本園の教育目標

- ◎思いやりのある子
- ◎考え工夫する子
- ◎明るくたくましい子

【学年のねらい】

- 0歳児 保育教諭と触れ合う中で安心感を得て、様々なものや友達に興味をもつ
- 1歳児 保育教諭や友達と関わりながら遊ぶ中で、自分の気持ちを表現する楽しさを感じる
- 2歳児 様々なことに興味や関心をもち、自分の気持ちを表現したり、
友達と関わったりする楽しさを感じる
- 3歳児 様々な遊びや活動の中で、自分の気持ちを存分に表現したり、
友達と一緒に遊んだりすることを楽しむ
- 4歳児 いろいろな友達との遊びや活動を通して、自分の気持ちや考えを表現したり、
意欲をもって取り組んだりすることを楽しむ
- 5歳児 様々な活動に意欲的に取り組む中で、見通しをもって自分で考えて行動したり、
友達と協力して活動を進める充実感を味わったりする

自己評価	評価内容
B	新型コロナウイルス感染症の扱いが変更となり、いちいの保育が大切にしてきた保育内容や環境、行事の取り組みや実施が可能となり、ねらいはおおむね達成できたと考える。

(A：成果が上がった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

2 重点的に取り組んだ目標・計画について

(A：成果が上がった。 B：ある程度成果が上がった。 C：もう少し努力が必要。 D：改善が必要。)

目標/計画	自己評価
<p>預かり/2号児保育の工夫 (日々の保育、長期休み) 自己評価：C</p>	<p>*教育時間との差別化を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・早朝預かりは曜日ごとに活動内容を変え、登園への意欲につながられるよう工夫している。しかし、子どもたちの遊びが盛り上がると「活気がある」というより「騒々しい雰囲気」となってしまう、入室を躊躇する姿もある。今後は、雰囲気作りの工夫が課題と考える。 <p>*園バスを利用した園外保育を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏休みに園外保育(公園)を考えていたが、猛暑のため中止した。ここ数年の気候を考えると屋内施設の利用を踏まえた保育計画が必要である。 <p>*子どものアイデアを生かし、工夫したり発展させながら継続的に取り組む活動を取り入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ぶどう組ならではの保育内容、環境構成を工夫しているが、引き続き取り組む課題である。 ・長期休み期間は遊戯室をパーテーションで仕切り、後方をぶどう組保育室とすることで、継続的な活動を楽しめるようにする。
<p>環境(ゾーン)の見直しと工夫 自己評価：A</p>	<p>*各ゾーンの子どもの遊びを把握する。</p> <p>*遊びへの意欲を引き出せるような環境が整っているか確認する。</p> <p>*子どもが遊びを工夫したり発展させたりすることができる準備(教材/教具)がされているか確認する。</p> <p>*子どもがじっくりと遊びこめる環境を整える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夏期は砂場を中心に、水遊びが盛んになる。そこで、水を生かした遊びを楽しめるよう、砂場に移動可能な水路を作成した。すると、水の流れに興味をもち、水量を変化させたり、速さに着目したりする姿が見られ、試すことを楽しめる場の1つになっている。 ・おはなしの森に木製のテーブルを設置した。これまでもベンチに座って絵本を見たり、友達とのおしゃべりを楽しんだりする姿はあったが、絵本をテーブルに置き、落ち着いた雰囲気でお話の世界を楽しむことができる環境となった。また、人形やぬいぐるみを座らせてごっこ遊びを楽しむなど、子どもたちが思い思いに生かしているのも大変良いと感じている。 ・ホッピーハウスでの遊びを盛り上げようと設置した衣装や装飾品(ヘアゴム等)、カバンや家電が雑に扱われ、また、片付けも不十分になってしまう事が課題となった。そこで、設置する物の数や大きさなどを見直し、子どもが自分たちで場を整えられるようにした。遊びに必要な物を準備したり、作りだすことはもちろん、片付けを終了するところまでが大切な経験であり、学びである。「片付けられる環境」が大変重要だと考える。

<p>玩具の見直し 自己評価：C</p>	<p>*各学年の玩具について、意図を確かめると共に子どもの成長を促す玩具について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学園の玩具選定基準についての意識が低い。参考にした書籍の内容と合わせ、今一度全職員で確認し、共通理解する必要がある。 ・玩具の対象年齢や素材、強度などに対する意識が低い。特に0歳児は口に含むことで様々なことを確認する育ちのため、誤飲の危険については常に意識しなければならない。しかし、異年齢児が共に過ごす場面では2歳児に適している0歳児には適していない(危険がある)物もあり、場の仕切り方や共有する玩具の選定、設置の仕方について改めて検討が必要である。 ・保育室の環境構成や玩具の設置については、管理職もしくは担任が中心に考えるものではあるが、そのほかの保育教諭が考えなくてよいわけではない、という意識が全職員に芽生え、様々な職員からたくさんのアイデアが出るようになってきたことは大変評価できる。 ・一方、せっかくの良いアイデアも予算の関係上すぐに活かさない場合もある。今後は、職員のアイデアや意見を反映させながら環境構成や玩具等の購入を計画できる流れの構築が必要だと考える。 <p>*専門書等を参考に、手作りの玩具を増やす。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・0～2歳児クラスを中心に手作り玩具を作成した。手作り玩具は壊れやすく強度面の課題はあるが、手作りならではのぬくもりや、身近な素材や廃材を生かすことができるので、製作費が安価であることが利点と考えている。今後も裁縫や編み物などが得意な職員の強みを活かして手作り玩具を作成していく。
--------------------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

3 今後取り組むべき課題

課題	具体的な取り組み方法
<p>預かり/2号児保育の 活動内容と環境の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保育室の共有(教育時間と預かり/2号児保育)における課題を明らかにし、預かり/2号児保育ならではの空間作りを行う。 ・長期休み期間のぶどう組を固定し、継続的な活動を楽しめるようにする。 ・長期休み期間の園バスを利用した園外保育を実施する。
<p>玩具の見直し</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年の玩具の状況(種類、個数、状態)を確認し、子どもの育ちに合っているか、また、望ましい発達を促すものになっているか考える。 ・玩具についての書籍を読んだり、研修に参加して学びを深める。 ・展示会に出向き、様々な玩具を知る。
<p>絵本について学び 活かし方を見直す</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・季節、子どもの興味や関心、保育のねらい(願い)に応じた絵本を選び、保育室に置く。 ・言葉のリズムや物語や情景を豊かに表現している言葉を保育に活かす。